

建築学科

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
1 年次	必須	建築史Ⅰ	講義	古代から近代に至るまで、日本に生まれ発展した建築技術、意匠、造形の特徴と変遷の過程を理解し、多様な時代、地域の文化を考えていく。	2		2
		住居論	講義	歴史的視点、地域的視点、階層的視点から住居論を考察。そのうえで現代の住空間のあり方を学び、生活空間の建築計画上の基本事項を習得する。	4		4
		インテリアデザイン論	講義	「レジデンシャルデザイン」と「コントラクトデザイン」「コマーシャルデザイン」。3つの用途、考え方に立ったインテリアデザインを学ぶ。	4		4
		建築一般構造	講義	建築構造の概要、木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造などの構造材料、建築の仕上げなど建築設計の基本的事項について学ぶ。	4		4
		建築造形演習	演習	空間の想像力、構成力及び造形感覚を養い、建築造形の表現・技術の手がかりとしての演習を行う。		2	2
		建築設計実習Ⅰ	実習	点と線を描く練習から開始し、平面図、立面図、断面図、矩計図、伏図、配置図などの実例模写などを通して、建築製図の基本技術を身につける。	2	2	4
		インテリアデザイン演習Ⅰ	演習	敷地・住人像を具体的に設定して、居住空間のインテリアデザインを行う。PCソフトを使ったプレゼンテクニックの向上をめざす。		2	2
		CAD演習Ⅰ	演習	手描きとCADとの製図の仕方の違いを理解し、2次元図面（平・立・断面図）と3次元モデリングの基本を習得する。		2	2
2 年次	必須	建築史Ⅱ	講義	西洋建築を古代オリエントからポストモダンまでの様式史の区分に従いながら解説。各様式の内容、伝播、各国による様式の違いを理解。	2		2
		建築構造力学	講義	建築の構造や技術用語、建築構造に使用される幾何学的形態など建築構造の基礎知識を習得。さらに静定構造を例に建築構造力学を学ぶ。	4		4
		都市設計論	講義	都市空間を構成する要件やそのデザインを定めている諸条件などを学びながら、それらと建築物との関係をしっかり把握・認識する。	4		4
		施工	講義	手作業から、技術の進歩、工法の改良によって機械化された方法や新しく開発された材料など各工事ごとの施工法の基本を習得する。	2		2

建築学科

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
2 年次	必須	材料	講義	「およそ型あるものは何でも建築材料となる」ことを念頭に、構造材と仕上材 2 つの建築材料についての性質、判別、使用方法を習得する。	2		2
		建築環境工学	講義	室内環境にとどまらず、建築そのものとその周辺の都市環境、さらには地球環境へ及ぼす影響まで含めて建築と環境の関係を考察する。	2		2
		建築構造演習	演習	通信授業である「建築構造力学」を補完するために行う。前半では主に応力の計算まで、後半では部材の安定性の検討までを習得する。		2	2
		建築演習Ⅰ	演習	民家建築の見学と実測調査を行い、伝統的な日本の住空間に見る特色、及び木造構法についての理解を深める。		2	2
		建築設計実習Ⅱ	実習	基礎的な建築の知識、構成、表現をもとにした住宅の設計を通じて建築設計の基本技術を習得。同時に、住空間における今日の問題を考察する。	2	2	4
		建築法規	講義	建築物の安全性及び防火、避難などの技術基準や、都市計画区域における建築制限、さらに都市計画法など建築関連法規の知識を習得する。	4		4
	選択 必須	インテリアデザイン演習Ⅱ ※	演習	建築空間に設置する家具・照明器具をデザインする。模型作製（モノづくり）を通して、その仕組み・素材を学ぶ。		2	2
		CAD演習Ⅱ ※	演習	3次元モデルのレンダリングから始まり、CADソフト以外のソフトも使い、DTPによるプレゼンボード作成の基本を習得する。		2	2
3 年次	必須	建築設備	講義	給水設備や排水設備など、建物を生活の場として機能させるために必要な各設備の基本計画、設計、施工の基礎知識と実践までを学ぶ。	4		4
		建築演習Ⅱ	演習	階段の構造・デザインについて学ぶ。その上で特色ある現代建築を見学し、階段を含む空間構成について考察する。		2	2
		建築設計実習Ⅲ	実習	実習Ⅰ・Ⅱで修得した知識をもとに公共性の高い建築物を計画設計する。	2	2	4
	選択 必須	測量演習 ※	演習	測量の目的と理論や方法を理解し、測量機具の取扱方法の習得、測量機具による敷地面積の求め方、高低測量の知識と技術を習得する。		2	2

■概要については変更になる場合があります。

※インテリアデザイン演習Ⅱ、CAD演習Ⅱ、測量演習から2科目を選択してください。

（2年次編入、3年次編入はインテリアデザイン演習ⅡかCAD演習Ⅱのどちらかを選択・履修してください。測量演習は必須です）

配当 年次	必須 区分	科目名	授業 形態	概要	単位数		
					通信	面接	計
4 年次	必須	建築設計実習Ⅳ	実習	実務で要求される実施設計図書の描き方について学習する。地域における公共施設のあり方とその構成について理解を深める。		4	4
		卒業設計・論文	卒業	1～3 年次までの実習の総まとめとして各自でテーマを設定したうえで、コンセプト・計画条件の提案を試み、作品としてまとめる。提出物は設計・論文のいずれかとする。		4	4
	単位数 計				44	32	76

■概要については変更になる場合があります。

●履修条件 修得順位を指定している科目は、下表の修得順位の順に履修してください。

修得順位 1	修得順位 2	修得順位 3
CAD 演習Ⅰ	▶ CAD 演習Ⅱ	
インテリアデザイン演習Ⅰ	▶ インテリアデザイン演習Ⅱ	
建築設計実習Ⅰ	▶ 建築設計実習Ⅱ・建築設計実習Ⅲ	▶ 建築設計実習Ⅳ
		▶ 卒業設計・論文

卒業後取得できる資格〔受験資格・登録資格〕

1 級建築士 〔受験資格〕	あらゆる建築物を監督し、人と自然とが調和したよりよい社会環境をつくる役割を担う建築士。1 級建築士になるには、建築学科を卒業後、国土交通大臣の行う 1 級建築士試験に合格し、2 年以上の実務経験が必要です。
2 級建築士・ 木造建築士 〔受験資格〕	2 級建築士は、意匠・構造・材料・設備・法規など幅広い知識を総合的に活用し、建築物の設計や工事監理を行う。建築学科を卒業すると同時に、都道府県知事が行う 2 級建築士・木造建築士試験の受験資格を取得できます。
建築設備士 〔受験資格〕	建築設備士は、建築設備[空調・換気・給排水衛生、電気等]の高度化・複雑化が進みつつある中で、建築設備に係る設計・工事監理において的確に対応するための建築士法に基づく国家資格です。建築学科を卒業後、2 年以上の実務経験を積みば受験資格が得られる。
建築施工管理技士 〔受験資格※〕	建築工事の実施にあたり、施工計画及び施工図の作成、工事の工程・品質・安全などの管理を的確に行う技術者資格。建築学科を卒業後、1 級は 3 年以上の実務経験（1 年以上の指導監督的実務経験含む）、2 級は 1 年以上の実務経験を積みば受験資格が得られる。
造園施工管理技士 〔受験資格※〕	造園施工管理技士は、昨今重要視されている緑化対策に対応する、造園工事の施工を担当する専門技術者。建築学科を卒業後、1 級は 3 年以上の実務経験（1 年以上の指導監督的実務経験を含む）、2 級は 1 年以上の実務経験を積みば受験資格が得られる。
土木施工管理技士 〔受験資格※〕	機械化・分業化・専門化が進む土木工事の監理技術者として活躍する土木施工管理技士。建築学科を卒業後、1 級は 3 年以上の実務経験（1 年以上の指導監督的実務経験含む）、2 級は 1 年以上の実務経験を積みば受験資格が得られる。
インテリアプランナー 〔登録資格〕	建築物のインテリア設計等に携わる技術者の資格制度で、インテリアの企画、設計、工事監理の業務を行います。インテリアプランナーの登録には、学科試験及び設計製図試験に合格しかつ、建築学科の卒業が必要です。

※令和5年度までの旧受験資格になります。施工管理技術検定の受験資格は、令和6年度より新受験資格に改定されています。ただし、令和6年度から令和10年度までの間は経過措置期間とし、第二次検定は、旧受験資格の選択が可能です。詳細は、国土交通省のHPをご確認ください。
（令和6年度以降の施工管理技術検定の受験資格:学歴の制限なし）

■その他、建築学科では「宅地建物取引士」の試験対策講座などを特別価格で受講できます。（令和6年度実績）